おおもとますゆき
大本益之議員

キャリア教育の充実を求める

議員　4年前と本年度のキャリア教育の取組み内容を比較してどのように進化したか。児童の発達段階に応じて新たに取り組んだことは何か。

教育長　以前は体験や活動ありきだったが、教員がキャリア教育の目標「一人一人の社会的・職業的自立に向け、必要な基盤となる能力や態度を育てることを通してキャリア発達を促す」ということを意識して、保幼小中の連携教育を進める中で、より意図的・計画的に実施されるようになった。本年度、小中一貫教育の研究発表を行う新吉中ブロックにおいては、発達段階に応じた育ちや学びをキャリア教育の視点でつないだ、12年間のキャリア教育全体計画を作成し取り組んでいる。

通級指導体制の充実を求める

議員　通級指導教室を中学校へ設置する計画はあるか。

教育長　自閉・情緒のニーズがどれくらいあるか把握し、ニーズがあれば岡山県教育委員会に強く要望したい。ひとつの中学校に設置する、または担当教員が通級指導を必要としている生徒の学校へ出向いていく、どちらが良いかも含めて前向きに検討する。

議員　通級指導教室を拠点とした地域のセンター的役割の充実についてはどうか。

教育長　小中学校における障がい特性の理解や自立活動の指導力向上等を支援する取組みということで大変有効だと考えている。実施を前向きに検討したい。

ふじいよしあき
藤井義明議員

幼保再編計画撤回へ

議員　幼保施設再編整備計画における集団規模の確保について、笠岡市の規模の基準をたずねる。

こども部長　「3歳以上が20人以上、3歳未満児も含めて全体で30人以上」を基準にして、認定こども園として再編整備するよう計画している。

議員　「入園児が増えたら園を残す」との市長発言についての基準に対する回答は、「幼稚園において各年齢それぞれ15人ずつ、計45人以上」であった。再編整備計画の基準と大きく変わっている。こんな理不尽なことを、市民は納得するのか。いつの間にか、再編整備計画の基準より大きく上がっている。どういうことかたずねる。

こども部長　再編計画には、今後大きな社会の変動があった場合には見直すと書かれている。児童が増えてきて施設が要るようになった時には、最低でも45人は要るのではないかと判断した。

議員　多くの市民・保護者の声を聴くことなく、このままの計画で行くと理解すればよいのかたずねる。

こども部長　この計画を基本に着実に進めていきたいと考えてる。

議員　多くの市民・保護者の要望である園を残すためにはどうすればよいのか。再編整備計画を変えないのであれば、解決策は、市長を変えるしかないと思う。